

TTC スペクトル管理SWG寄書

日付：2004年11月19日

提出元：ソフトバンク B B 株式会社

題名：TCM - ISDN に同期しないシステムを考慮した保護判定基準値設定について

はじめに

本寄書は、第2版の保護判定基準値の設定方法について、TCM - ISDN と同期するシステム(以下 TDD システム)と TCM - ISDN と同期しないシステム(以下 FDD システム)の公平を求める提案である。

1、第2版の保護判定基準値の問題について

第2版の保護判定基準値は TCM - ISDN を含むクラス A 代表システムの相互の干渉計算を基に各々のシステムの保護判定基準が定められている。

TCM- ISDN と傾向の異なる漏話が生じるような FDD システムの場合、TCM- ISDN と混在することにより大きな干渉を与えるため、FDD システムの保護判定基準値が著しく低く設定される。このことは、TCM- ISDN からの影響を受けていない既存 FDD システムが新システムの影響に著しく性能が劣化することが発生する。

- * 影響度：現状、国内の既存 ADSL ユーザの約 20% (250 万ユーザが FDD システムを利用している)

2、FDDシステムとTDDシステムの保護判定基準値の公平設定について

FDD システムと TDD システムの保護判定基準値の公平を保つため、PSD が同等である既存の FDD システム (AnnexA) の保護判定基準値を TDD システム (AnnexC) に代表させることを提案する。このことにより、新システム導入時の既存 FDD システムのユーザの保護と極度な TCM- ISDN と傾向が同じ漏話が生じるような TDD システムの導入の規制が可能になる。また、保護判定基準値を代表させることにより、新システム導入時の計算手順が簡素化される。

現在、別課題にてスペクトル管理 SWG で導入判定基準の導入について検討がされている。今後の議論で導入判定基準の導入の合意があった場合も、本提案を導入判定基準及び保護判定基準に適用することを提案する。

以上

湯浅 重数

菊池弘人